

ち一人一人に電話をしていきました。ぼくだったら、そんな面倒なことはできません。その三人の行動には、三人の本当の「優しさ」が表れていると思います。

そんな風に、三人とおじいさんがだんだん仲良くなってきた時に、おじいさんは家で亡くなってしまいました。三人は、心から悲しみ、おじいさんのために泣きました。おじいさんが死んでから三人は、考え方が変わりました。自分の考えに対して、「おじいさんだったらどうするんだろう」「おじいさんならどう考えるんだろう」ということを考えるようになったのです。その後三人は、小学校を卒業し、それぞれ別の道を進むことになりました。

「河辺」は、自分の新しい父と再会したお母さんと三人で外国でくらすことになりました。「河辺」は、最初、そのことに納得していませんでしたが、「おじいさんだったらなんて言うんだろう」と考え直し、オーケーしました。この先三人が、三人そろって会うことは、もう二度とないのかもしれない。でも、この三人は、この夏おじいさんと過ごした楽しかった夏休みを頭の片すみにしまい、それぞれの道を進んでいくのではないのでしょうか。三人は、おじいさんと出会えたことで大きく変わりました。

ぼくも小学二年生のときに良い「出会い」をしています。それは、柔道の先生との「出会い」です。ぼくは、それまで、とてもネガティブな考え方をしていました。